

連載 私の町はどんな町②

さいたま市(旧浦和市)

中山道は六辻交差点で国道十七号を横切り、大宮台地の南端(根岸)から登り坂になります。古代この辺りが海岸線だったと言われています。

緩い長い坂を「浦和坂」といわれていたが、坂の途中で旅人の焼き米を売る店があったので「焼き米坂」といわれ、

広重の道中画にも「名物新焼米」の看板のある店が描かれています。往時中山道は二間幅の狭い道でこの台地の上を走っていました。

浦和は現在、県庁所在地で行政の中心として権威を誇っています。宿場当時は県内九ヶ所のうち人口は八番目で最も規模の小さい宿場でした

所謂、休憩程度の通過宿で本陣を預かる星野家の財政は苦しく、仲町にあった本陣の表門も取り壊して大間木の大熊家に売却されて、今も大熊家の個人住宅の表門として残されています。

歴史的な遺産も、宿入口の

今シリーズは皆さんの住む町の歴史を取り上げる新シリーズです。中山道を北へたどりませう。

「調神社」や宿中央の「玉蔵院」を始め東部地区に多く残っています。

市内最古の寺院建築である「吉祥寺山門」は江戸時代初期の作品で、「大間木氷川神社本殿」は江戸初期に大宮氷川神社の本殿を移したものと云われています。

中でも見沼田圃を見下ろす台地にある「清泰寺」は、境内の周囲に三五一基の庚申塔があり整然と並んでいる様は壮観です。

清泰寺本堂の左側に徳川家の三葉葵の紋を陽刻した門の中に「見性院殿之墓」と明刻



された高さ二、六米の立派な墓があります。当該霊廟は、初代会津藩主保科正之によって建てられました。見性院尼は武田信玄の二女で穴山梅雪の夫人でしたが、夫の死後家康の庇護の下、二の丸田安屋敷に住んでいました。

二代將軍秀忠の側室お静が懐妊しましたが、正室のお江戸の方(淀君の妹)は気性が激しく嫉妬心が強かったため見性院は身重なお静を引き取り、自分の所領地浦和宿大牧の里に匿って無事男の子を出産させました。

この幸松丸は、父秀忠との親子の名乗りもできず、見性院は幸松丸の将来を憂い、滅亡した武田家ゆかりの地、信州高遠藩主保科正光の養子にしたのです。秀忠の死後三代將軍家光が自分に異母弟がいると聞き、秀忠の実子と認知し、会津藩初代藩主としての保科正之を誕生させました。

正之は四代將軍家綱の輔弼役を務める等、世に比類なき名君といわれています。

見性院の死後、正之は自分を撫養してくれた見性院の恩

を追慕してこの大牧の清泰寺に「葵の紋」入りの霊廟を建てたのです。

さいたま市東部に広がる見沼田圃は、八代將軍吉宗の命で開発された新田で、利根川の水を引くための全長九十六キロに亘る灌漑用の「見沼代用水路」は関東一の規模を誇っています。

この代用水路は荒川に注いでいる芝川を挟んで西縁と東縁に造られ、その水路と芝川を結ぶ「見沼通船掘」はパナマ運河と同じ仕組みの「閘門式運河」で、パナマ運河より一八〇年も早く発明・実施されていたのは驚異です。

中山道本陣跡から百米ほど先に「御免毎月二七市場定杭」の石碑があります。毎月二と七のつく日、六回市が開かれていました。

代ものを積み重ねしは商人のおもてうらわの宿の賑い

とあり、浦和宿中最も賑っていた処と思われます。

(パシフィックパレス 武蔵浦和 小島次郎)

早目の点検と改修で漏水を防ぎ、建物の資産価値維持・保全をサポートします

「非破壊」劣化度診断システム

防水シート「ロンブルーフ」の防水層に損傷を与えずに劣化度を診断

ロンマットME・ロンステップME

滑りにくい長尺塩ビシート・階段用床材+塗膜防水で安全と防水性を確保

ロンシール工業株式会社

http://www.lonseal.co.jp/

●本社防水部 〒130-8570 東京都墨田区緑4-15-3 TEL.03-5600-1866 FAX.03-5600-1846
●大阪支店 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-9-13 大北ビル7F TEL.06-6304-2700 FAX.06-6304-6948